

平成 19 年 3 月 6 日
環境省自然環境局野生生物課

ラムサール条約登録湿地を増やす議員の会総会

資 料

- 1 . 候補湿地 (3 4 ヶ所) の調整状況について (資料 1)
- 2 . C O P 1 0 に向けた環境省の取組について (資料 2)

候補湿地（34ヶ所）の調整状況について

1. COP 9に向けた検討過程で選定した54ヶ所のうち、COP 9に際し20ヶ所が登録され、登録されなかった候補湿地は34ヶ所である。
（別紙1：54ヶ所のリスト、別紙2：位置図、別紙3：34ヶ所の概要）
2. 34ヶ所が登録に至らなかった理由は、COP 9開催前までに関係者の理解が得られなかった、登録を想定する区域について自然環境保全の法的担保をとることができなかった、など様々であった。
3. COP 9以降一年程度が経過している中、地方環境事務所を通じて、登録に至らなかった候補湿地についての情報収集や関係者との調整を図っているところである。これまでのところ、全体としては状況の変化があまり見られていないが、北海道・サロマ湖では、ラムサール条約についての勉強会の開催など、登録へ向けた地元の取組が進んでいるところである。
4. また、新規登録ではないが、琵琶湖（平成5年に条約湿地に登録）において、琵琶湖内湖である「西の湖」をラムサール条約湿地に含めて区域を拡張する取組が進んでおり、地元自治体とも打合を行い、地元の合意形成等を進めているところである。
5. 環境省としてラムサール条約湿地の着実な登録を推進していくため、COP 10に向け、34箇所の候補湿地を中心とした登録可能性のある湿地を巡る状況について、今後とも都道府県、地元自治体と緊密に連携し、情報収集や登録に向けた呼びかけを積極的に行って参りたい。

ラムサール条約第 10 回締約国会議 (COP10) に向けた取組予定について

1. 国際的な対応

各種国際会議への参加

- ・ COP10 の準備状況等について議論されるラムサール条約常設委員会 (2008 年 2 月、6 月) アジア地域会合 (2007 年 11 月) 等に参加。

アジア湿地シンポジウムの開催支援

- ・ アジア地域の行政、専門家、NGO 等の参加を得て開催されるアジア湿地シンポジウムの企画・準備を支援 (2008 年 4~5 月開催予定)。

2. 国内条約湿地への対応 (平成 19 年度)

(1) 普及啓発

ワイズユース推進を目的としたワークショップ開催

- ・ 地域の多様な関係者の参加を得て、ワイズユース (湿地の賢明な利用) を推進することを目的としたワークショップの開催。

普及啓発に関する国内行動計画のあり方検討

- ・ 我が国における条約湿地の普及啓発に向け、必要な行動内容の検討、整理。

普及啓発資料の配付

- ・ 平成 18 年度に作成したラムサール条約及び条約湿地に関する普及啓発資料 (一般向け、子ども向け、自治体担当者向け) の配布・普及。
- ・ 2 月 2 日の「世界湿地の日」のための普及啓発資料の翻訳・配付。

イベントにおける条約湿地の P R

- ・ 毎年 6 月に代々木で開催される「エコライフ・フェア」において、条約湿地の P R ブースの設置を継続。

(2) モニタリング

モニタリング調査の実施

- ・ ラムサール条約湿地情報票 (R I S) の更新に必要な情報収集等を目的としたモニタリング調査を実施

R I S の定期的な更新、条約事務局への提出

(1) (2) については、アジア太平洋地域生物多様性保全推進費のうち 16,067 千円が 19 年度予算案に計上されている。

(3) 湿地の環境改善

保全事業の検討

- ・ 鳥獣保護法の改正 (平成 18 年 6 月) により、国指定鳥獣保護区を対象に環境改善のための保全事業が可能となる。
- ・ 今後、必要に応じ、ラムサール条約湿地においても水鳥の生息地整備、湖沼等の水質改善等を行うことを検討。

位置図



凡 例	
●	COP 9以前の既登録地 (13ヶ所)
◐	COP9登録地 (20ヶ所)
○	候補地 (34ヶ所)

- 1 知床半島サケ・カラフトマス遡上河川
- 2 野付半島 野付湾
- 3 風蓮湖・春国岱
- 4 丹後・但馬地方低山地湧水流域のアベサンショウウオ生息地

条約湿地候補地の概要(1)

< 日本的重要湿地500における記述の抜粋に担保措置の欄を追加 >

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	特 徴	担保措置
11	サロマ湖	北海道	湿原植生	塩沼地植生(アッケシソウ、ウミドリ、オオシバナ、ウシオツメクサ、ハマシオンの群落)、海岸草原群落はハマナス、エソゼンテイカ、エソスカシユリなどの群落とエゾノコリンコ群落。	網走国定公園
			海草	日本最大の潟湖性アマモ場。広大なアマモ群落。	
			ガン・カモ類	オオハクチヨウ、コハクチヨウ。11月下旬にオオハクチヨウ約800羽、コハクチヨウ約200羽。	
			底生動物	湖底にはカキ礁遺骸が存在。ホタテガイ、ホッコイエビ、カキなどの重要な生息地。	
12	能取湖	北海道	海草	スゲアマモの広大な藻場で、分布は湖内の西岸。スゲアマモの単純群落では国内最大、その他、アマモ、コアマモの群落がある。	網走国定公園
			ガン・カモ類	オオハクチヨウ、ヒシクイ(亜種ヒシクイ)の渡来地。	
			底生動物	ホタテガイ、ホッコイエビの重要な生息地。	
13	網走湖	北海道	湿原植生	女満別側には国指定天然記念物の大規模なハンノキ-ミズバシヨウ群落がある。ヤチダモ、ハルニレ、エゾノウワミズザクラ、エゾイラクサ、クサソテツ、オニシモツケ、オオバナノエンレイソウなどが生育。	網走国定公園 国指定鳥獣保護区
			その他鳥類	タンチョウの生息地。	
			底生動物	ヤマトシジミなどの重要な生息地。網走川下流にはエゾホトケ(淡水魚類)も生息する。	
15	知床半島サケ・カラフトマス遡上河川	北海道	淡水魚類	種苗放流のない唯一のサケ、カラフトマス生息地。自然遡上がある。	知床国立公園
39	沼の原 沼の平	北海道	湿原植生	沼ノ原湿原にはチシマミドリ群落、フトヒレムシロ群落、クロヌマハリイ群落、ミツガシワ群落、エゾホソイ群落、ホロムイソウ-ミツキグサ群落、ナガバノモウセンゴケ-ウツクシミズゴケ群落、ナガバノモウセンゴケ-フサバミズゴケ群落、ミヤマミズゴケ群落、イボミズゴケ群落、湿原生アカエゾマツ林。忠別沼周辺高山湿原にはミヤマヤチヤナギ-チャミズゴケの群落、ムセンズゲやミヤマホソコウガイゼキショウの群落。高根ヶ原周辺高山湿原にはエゾワタスゲの生育するミズゴケ群落がある。五色ヶ原、ヒサゴ沼周辺には、広大な高山雪田群落が見られる。	大雪山国立公園
			昆虫類	タカネマメゲンゴロウ、クモマエゾトンボ、ダイセツマメゲンゴロウ、ダイセツマルクビゴミシの生息地。	
58	大沼	北海道	淡水貝類	エゾトフシジミ、エゾハマシジラガイ。種の多様性が高い(北方系と本州系貝類要素が混在する)。	大沼国定公園
69	十三湖 岩木川	青森県	湿原植生	エゾシロネ-ヨシ群落、シオクグ群落など。	津軽国定公園
			その他鳥類	オオセツカの生息地。	
			昆虫類	岩木川最下流部は河畔が広大なヨシを主体とする湿原となっている。十三湖周辺に甲虫類。ウチワヤンマ、アオヤンマなど多数のトンボ類、オオシマゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、ゲンゴロウモドキ、エゾガムシ、ホンガムシ他の水生甲虫類をはじめとした水生昆虫が豊富で、周辺にはキタアカシジミが生息する。	
			底生動物	ヤマトシジミなどの汽水性ベントスの生息地。	

条約湿地候補地の概要(2)

重要湿地 50C	湿地名	都道府県	生物群	特 徴	担保措置
70	屏風山湿原池沼群	青森県	湿原植生	ツルコケモモ - ミズゴケ群落、ニッコウキスゲ - ハナシヨブ群落など。	津軽国定公園
			水草	貴重な水生植物ならびに湿地植生が発達。	
			昆虫類	カラカネイトンボ、オオセスジイトンボ、アオヤンマ、マダラヤンマ、オオトラフトンボ、ハッチョウトンボ、オオキトンボなど多数のトンボ類。オオヒメゲンゴロウ、オオシマゲンゴロウ、ゲンゴロウモトキなどの水生甲虫類が多く生息している。	
72	八甲田山湿原群	青森県	湿原植生	ミヤマイヌハナヒゲ - ワタミズゴケ群落、シヨウジヨウスゲ群落、ヌマガヤ群落、ミヤマホタルイ群落、エゾノヒツジグサ群落など。	十和田八幡平国立公園
			淡水藻類	絶滅危惧 類のヒメフラスコモ、カタシャジクモが生育。	
			昆虫類	薫温泉の周囲には少し離れた赤沼を含め大小の沼が点在し、薫七沼と呼ばれる。周辺の森林からも興味深い昆虫が多数確認され、青森県にあっては昆虫の宝庫として知られている。キタヒメアメンボ、キイロマツモムシの生息地。八甲田山系は南北2群の火山山なり その中間に睡蓮沼を含む湿原地帯がある。カオジロトンボ、イシカミドクワゲラ、キイロマツモムシ、ヘリグロミズカメムシ、ババアメンボ、チャイロシマチビゲンゴロウ、サワダマゲンゴロウ、メススジゲンゴロウ、ゲンゴロウ、ミヤマミズスマシ、ゴマフドビケラ、ヤチアミメビケラなどの水生昆虫が生息する。	
75	八幡平周辺湿原群	岩手県・秋田県	湿原植生	シヨウジヨウスゲ群落、ヌマガヤ - イボミズゴケ群落、ミヤマイヌハナヒゲ - ワタミズゴケ群落、シモフリゴケ群落、ヤチスゲ群落、エゾノソイ群落、ミヤマホタルイ群落。	十和田八幡平国立公園
			水草	夜沼は日本唯一のハリナズナの群生地。他の湖沼にも貧栄養水域性の水生植物が生育する可能性があり 要注目。	
			昆虫類	チシマミズムシ、モイワサナエ、ルリボシヤンマ、オオルリボシヤンマ、タカネトンボ、カラカネトンボ、エゾトンボ、ハッチョウトンボ、ムツアカネ、カオジロトンボなどの生息地。八幡沼、ガマ沼、蓬萊沼、黒谷地、御在所湿原などの調査により 高標高の池沼にはチシマミズムシ、北方系のGlaenocorisca 属の特異なミズムシ、アサヒコミズムシ、キイロマツモムシが多数みられる。	
109	最上川河口	山形県	ガン・カモ類	ハクチョウ類の渡来地。	国指定鳥獣保護区(特保未指定)
120	裏磐梯湖沼群	福島県	湿原植生	オヒレムシロ、ジュンサイなどの生育する多数の湖沼や低層湿原が散在する。	磐梯朝日国立公園
			淡水魚類	シナイモツゴ、アカヒレタビラの生息地。	
			昆虫類	アマゴイルリトンボ、アオヤンマ、ルリボシヤンマ、エゾトンボ、ハッチョウトンボの生息地。	
121	猪苗代湖	福島県	淡水貝類	絶滅危惧 類のカワシンジュガイ(流入河川)、ヨコハマシジラガイ(猪苗代湖)。種の多様性が高い。	磐梯朝日国立公園

条約湿地候補地の概要 (3)

重要湿地 50C	湿地名	都道府県	生物群	特 徴	担保措置
131	利根川下流部	茨城県・ 千葉県	シギ・チドリ類	波崎の砂浜、神栖・矢田部西前宿などの河川敷。チュウシャクシギ、ツルシギ、ミュビシギ、キョウジシギ、ミヤコドリでは最小の推定個体数の1%以上、メダイチドリ、ハマシギ、キアシシギ、ムナグロでは0.25%以上が記録されている。	国指定鳥獣保護区(計画) 筑波水郷国定公園
			その他鳥類	オオセッカの生息地。	
138	大田原市の湧水湿地	栃木県	淡水魚類	ミヤコタナゴ、陸封性イトヨの生息地。	羽田ミヤコタナゴ生息地保護区
159	三番瀬	千葉県	ガン・カモ類	スズガモの渡来地。	国指定鳥獣保護区(計画)
			シギ・チドリ類	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が多く、ハマシギでは最小推定個体数の1%以上、ミヤコドリ、ダイゼン、メダイチドリ、キアシシギ、キョウジシギ、ミュビシギでは0.25%以上が記録されている。RDB種のホウロクシギが記録されている。	
			底生動物	東京湾奥部の最大の干潟、アサリなどの二枚貝類ならびにエトガワミズゴマツボの生息が豊富で東京湾の水の浄化機能も高い。	
171	父島・母島の河川	東京都	淡水魚類	オガサワラヨシノボリ、チチブモドキの生息地。	小笠原国立公園
			淡水貝類	オガサワラカワニナ(準絶滅危惧)の生息地。	
172	小笠原諸島周辺	東京都	サンゴ	エブロン礁。希少種を含み、自然度が高い。	小笠原国立公園
			ウミガメ	小笠原諸島は南西諸島に並ぶアオウミガメの繁殖地である。その中でも最も多く産卵が行われるのが初寝の砂浜である。その砂浜に至る海域として重要である。南島はアーチ状の岩穴をくぐって砂浜に至る産卵場として世界でも唯一の場所である。アオウミガメの産卵生態、行動を考える上でも貴重と思われる。	
			底生動物	オガサワラスガイなど固有種の生息地。	
178	苗場山周辺湿原	新潟県・ 長野県	湿原植生	ヌマガヤ群落、イワイチヨウ・シヨウジョウスゲ群落、ヤチスゲ群落、ミヤマホタルイ群落など。	上信越国立公園
189	福島潟	新潟県	湿原植生	ヨシ群落、マコモ群落、オニバス自生地北限。	国指定鳥獣保護区(特保未指定)
			ガン・カモ類	コハクチヨウ、ヒクイ(亜種オオヒクイ)の渡来地。	
189	瓢湖	新潟県	淡水魚類	ウケクチウグイの生息地。	国指定鳥獣保護区
			ガン・カモ類	コハクチヨウ、ヒクイ(亜種オオヒクイ)の渡来地。	
203	立山周辺湿原群	富山県	湿原植生	ヤチカワズスゲ・キダチミズゴケ群落、ダケスゲ群落、ミヤマホタルイ群落、ヌマガヤ群落など。	中部山岳国立公園 国指定鳥獣保護区
264	丹後・但馬地方低山地 湧水域のアベサンショ ウオ生息地	京都府・ 兵庫県	爬虫両生類	アベサンショウオ(日本固有種)の生息地。	善土寺長岡アベサンショウオ生 息地保護区 大岡アベサンショウオ生息地保 護区

条約湿地候補地の概要(4)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	特 徴	担保措置
304	隠岐島周辺沿岸	島根県	海藻	希少種が多い。日本海で海藻の種数が最多。クロキツタ(国の天然記念物)の生育地。	大山隠岐国立公園
363	和白干潟	福岡県	シギ・チドリ類	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が多く、ミヤコドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、ミコビシギ、トウネン、ハマシギでは最小推定個体数の0.25%以上が記録されている。RDB種のカラフトアオアシシギ、ヘラシギ、コシャクシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、オオジシギが記録されている。	国指定鳥獣保護区(特保未指定)
			ガン・カモ類	スズガモの渡来地。	
			その他鳥類	クロツラヘラサギの渡来地。	
			底生動物	豊富な鳥類と塩生植物。ベントス相も豊富で、ウミナ、オオノガイ、ツバサゴカイといった希少種も多い。	
365	有明海(大授搦)	佐賀県	湿原植生	シチメン草(絶滅危惧類)の我が国最大の生育地。	国指定鳥獣保護区(計画)
			シギ・チドリ類	春秋の渡りおよび越冬期の種数・個体数が多く、ダイゼン、ハマシギ、ダイシャクシギでは最小推定個体数の1%以上、シロチドリ、メダイチドリ、アオアシシギ、ソノハシシギ、キアシシギでは0.25%以上が記録されている。RDB種のカラフトアオアシシギ、コシャクシギ、アカアシシギ、ホウロクシギが記録されている。	
			ガン・カモ類	ツクシガモの渡来地。	
			その他鳥類	ズグロカモメの渡来地。	
422	出水干拓地	鹿児島県	その他鳥類	ナベヅル・マナヅルの渡来地。	国指定鳥獣保護区
440	住用湾流入河川および河口部	鹿児島県	マングローブ林	メヒレギ、オヒレギの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。	奄美群島国立公園
			マングローブ林	メヒレギの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			マングローブ林	メヒレギ、オヒレギ、サキシマスオウノキ、シマシラキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	
			淡水魚類	キバラヨシノボリ、リュウキュウアユの生息地。	
			甲殻類	住用村の住用川と役勝川の河口には、マングローブが大規模に発達している。両河川にはRDB記載の絶滅危惧種リュウキュウアユ(淡水魚類)が生息し、マングローブ周辺が冬場の稚魚の成育場所になっている。また、そこは川と海とを行き来して生活する甲殻類や魚類の稚仔魚や幼生の成育場所になっている。また両流入河川には、RDB記載種のリュウキュウサワガニ・サカモトサワガニ・アマミササワガニなどが生息している。	
底生動物	広大なマングローブ林を擁し、林内には希少巻貝類を多産する。				

条約湿地候補地の概要 (5)

重要湿地 500	湿地名	都道府県	生物群	特 徴	担保措置
454	屋我地	沖縄県	その他鳥類	ベニアジサシ、エリグロアジサシの繁殖地。シギ・チドリ類の渡来地。	沖縄海岸国定公園 国指定鳥獣保護区
			底生動物	希少巻貝の多様性が極めて高い。オオズングリアゲマキの国内唯一の生息地。ニカドカトも世界唯一の生息地。	
471	久米島の溪流 湿地	沖縄県	昆虫類	クメジマボタルの生息地。	宇江城岳キクザトサワヘビ生息地 保護区
			爬虫両生類	キクザトサワヘビ(日本固有種)、リュウキュウヤマガメ(日本固有種)、ヤマシナトカゲモドキ(種として日本固有)の生息地。	
490	石西礁湖	沖縄県	サンゴ	準堡礁。種の多様性が高く、希少種を含む代表的な地域。幼生供給源として重要。自然度が高い。	西表国立公園
493	仲間川	沖縄県	マングローブ林	メヒレギ、オヒレギ、ヤエヤマヒレギ、ヒレギダマシ、ヒレギモドキ、マヤブシキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的 固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。国天然記念物。	西表国立公園
			淡水魚類	ナガレフウライボラなど亜熱帯性淡水魚類の多様性が高い。特に浦内川ではテッポウウオ、ウラウチフェダイが生息。また、大見謝川、仲間川の上流にはツバサハゼが生息。	
			甲殻類	仲間川やその支流にはRDB記載の3希少種(コソノヌマエビ・シヨキタテナガエビ・ヤエヤマサワガニ)が生息しているので、流域全体が重要。また、近年、仲間川支流から新種らしきカワリヌマエビの一種も発見されている。	
			底生動物	日本で最大級のマングローブ湿地を擁する。マングローブ湿地固有の底生動物の種の多様性大。	
498	浦内川	沖縄県	マングローブ林	メヒレギ、オヒレギ、ヤエヤマヒレギ、ヒレギダマシ、ヒレギモドキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的 固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。	西表国立公園
			淡水魚類	ナガレフウライボラなど亜熱帯性淡水魚類の多様性が高い。特に浦内川ではテッポウウオ、ウラウチフェダイが生息。また、大見謝川、仲間川の上流にはツバサハゼが生息。	
			甲殻類	浦内川の汽水域には周縁性魚類や甲殻類が多く、淡水域には希少種や危急種に該当する甲殻類やハゼ類が生息しているので、流域全体が重要。特に、マングローブ水路には南方系のテッポウウオやウラウチフェダイなど、河川上流部には河川陸封性のシヨキタテナガエビやコソノヌマエビおよびヤエヤマサワガニなど、それぞれ貴重種が生息している。	
			底生動物	マングローブ湿地固有の底生動物が豊富。ノコハオサガニが潮間帯で見られる日本唯一の場所。	

条約湿地候補地の概要(6)

重要湿地 50C	湿地名	都道府県	生物群	特 徴	担保措置
499	西表島南西部海域および河口域	沖縄県	ウミガメ	八重山諸島でも最もアオウミガメが多く生息する海域で、湾奥の藻場を餌場としていることが解っている。自然度も高い。西表島の南岸、特に通称タカハマ、ワカレハマと呼ばれている砂浜は、西南諸島では最もアオウミガメが高密度で産卵する砂浜である。また、道路や集落等は全くなく極めて自然度の高い場所だと思われる。その沖合いには、礁原が広がっている。	西表国立公園
			サンゴ	種の多様性・自然度が高い。	
			海草	ウミノヨブの純群落。	
			海草	リュウキュウスガモ、リュウキュウアマモ、ウミノヨブの群落。	
			サンゴ	種の多様性が高く、希少種を含む。	
マングローブ林	メヒレギ、オヒレギ、ヤエヤマヒレギ、ヒレギダマシ、ヒレギモトキの生育地。マングローブ樹種の希少分布地。マングローブ林の地理的希少分布地。マングローブ林(生態系)の代表的・固有的な分布地。マングローブ林生態系の多様性が高い。				